

カスケード入力

概要

カスケード入力では、入力されている内容に応じて、リストの内容を変化させて入力することができます。

ここでは営業報告書を使用して、「報告者」の内容に対応した「訪問先」のリストの内容を表示します。



リスト用のデータ作成

① 営業報告書のノートに新規でノートを追加します。

② フォーム部品「一行テキスト」で報告者と訪問先のリストを作成します。

③ 報告者の入力フィールドにタグを設定します。営業報告のタグを選択してください。
報告者と訪問先の入力フィールドにそれぞれ対応するタグをリンクしてください。

④ 選択ツールで報告者と訪問先の入力フィールド選択してください。ツールボックスを開いてレイアウトの設定をタップしてください。複製「縦に複製」をタップしてください。下に2つのセルがコピーされます。

⑤ 報告者と訪問先のデータを入力してください。

これでリストに表示する項目を作成できました。

リストに表示する報告者と訪問先の組み合わせのデータを作成します。

- ① 営業報告書のノートに新規でノートを追加します。
- ② フォーム部品「一行テキスト」で報告者と訪問先のリストを作成します。
- ③ 報告者の入力フィールドにタグを設定します。営業報告のタグを選択してください。
報告者と訪問先の入力フィールドにそれぞれ対応するタグをリンクしてください。
- ④ 選択ツールで報告者と訪問先の入力フィールド選択してください。ツールボックスを開いてレイアウトの設定をタップしてください。複製「縦に複製」をタップしてください。下に2つのセルがコピーされます。
- ⑤ 報告者と訪問先のデータを入力してください。

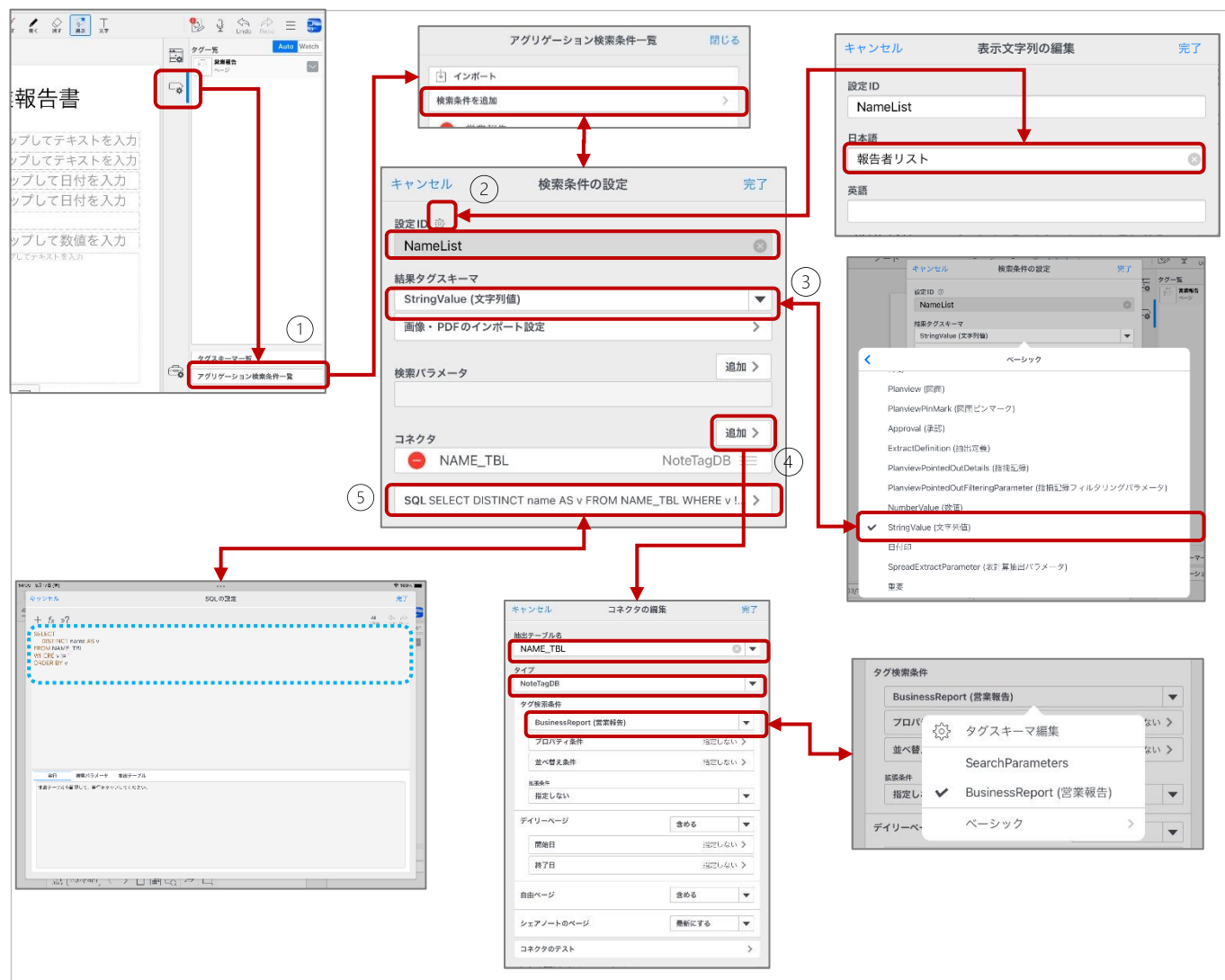
これでリストに表示する項目を作成できました。

報告者リストの作成

作成した表の内容を、アグリゲーションを使ってリストで表示します。

報告者の入力時に、作成した表からリストで選択できるようにします。

報告者リスト表示用のアグリゲーション検索条件作成



- ① ページ編集画面から、ツールボックスのタグマーク>アグリゲーション検索条件一覧をタップします。アグリゲーション検索条件一覧ダイアログから「検索条件を追加」をタップし検索条件の設定を行います。
- ② 設定 ID に「NameList」と入力します。設定 ID となりの歯車アイコンをクリックして日本語名に「報告者リスト」と入力します。
- ③ 結果タグスキーマを追加します。入力フィールドをタップするとリストが表示されるので、「ベーシック」をタップします。リストから「StringValue(文字列)」をタップします。
- ④ コネクタを追加します。追加をタップしてコネクタの編集ダイアログを表示します。コネクタの結果を格納する抽出テーブル名を入力します。ここでは抽出テーブル名「NAME_TBL」を入力します。タイプではコネクタのタイプをリストから選択します。ノート内に作成した報告者の情報を取得したいので、ここでは

「NoteTagDB」を選択します。タグの検索条件にはタグスキーマ「BusinessReport（営業報告）」を選択します。

- ⑤ SQL の設定。報告者(name)の情報を取得し表示します。

```
SELECT
  DISTINCT name AS v
FROM NAME_TBL
WHERE v != "
ORDER BY v
```

これで報告者の情報を取得するアグリゲーション検索条件が作成できました。

報告者リスト表示のための UI 設定

アグリゲーション検索条件を UI に設定します。



- ① 報告者の入力フォームを長押しから、ツールボックスをタップし、フォームの設定を開きます。編集設定にある「リストの設定」をタップします。
- ② リストの設定ダイアログでアグリゲーションをタップします。検索条件の選択ダイアログで「報告者リスト」を選択します。

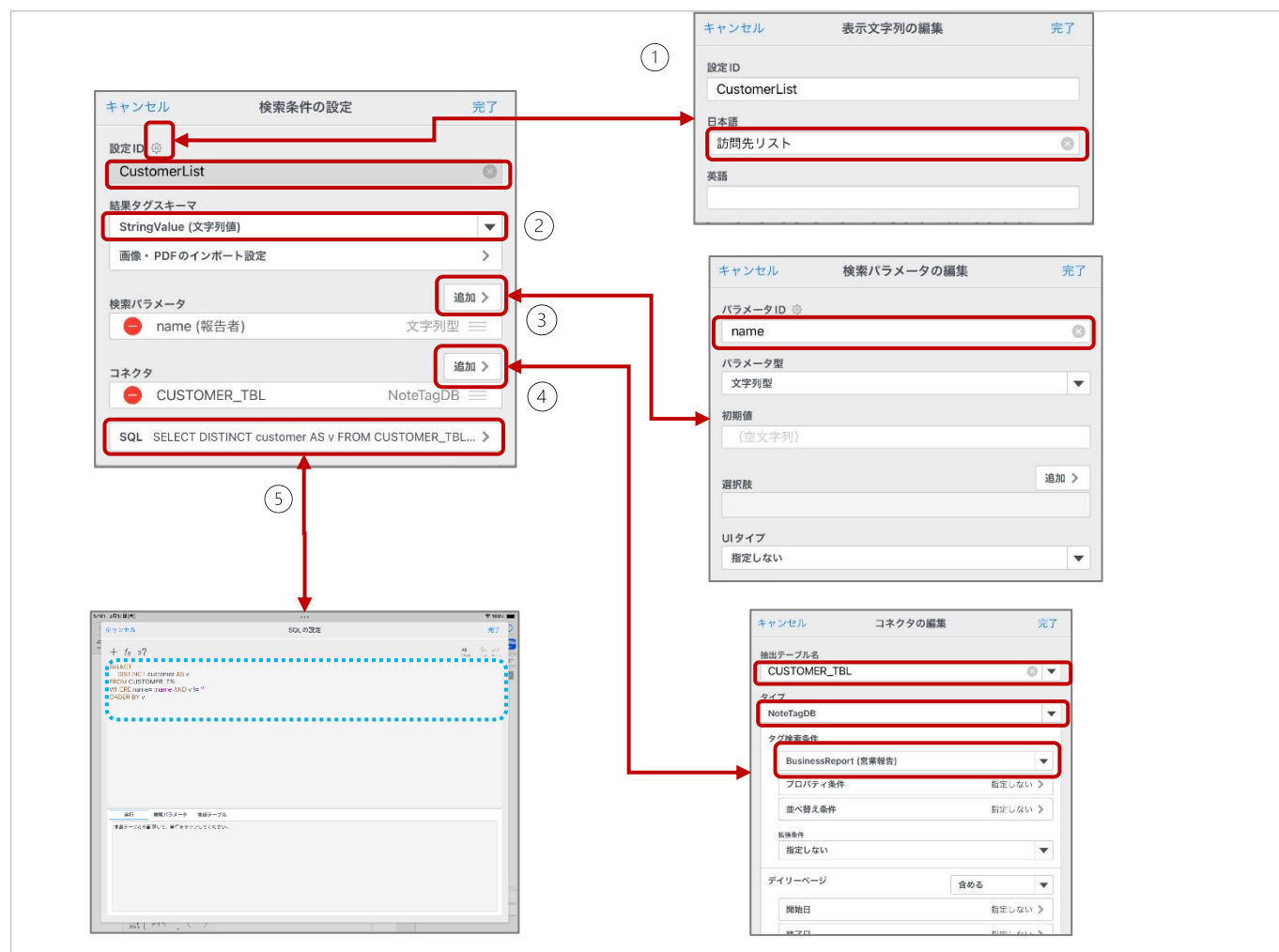
これで、報告者の入力フィールドをタップすると、最初に作成したリスト用データの報告者がリストに表示されます。

訪問先リストの作成

作成した表の内容を、アグリゲーションを使ってリストで表示します。また、入力されている内容に応じて、リスト選択の内容を変化させるカスケード入力を行います。

訪問先リストでは、報告者の内容によって訪問先のリスト内容を変更して選択できるようにします。

訪問先リスト表示用のアグリゲーション検索条件作成



報告者リストとほぼ同じフローですが、設定の異なるところを説明します。

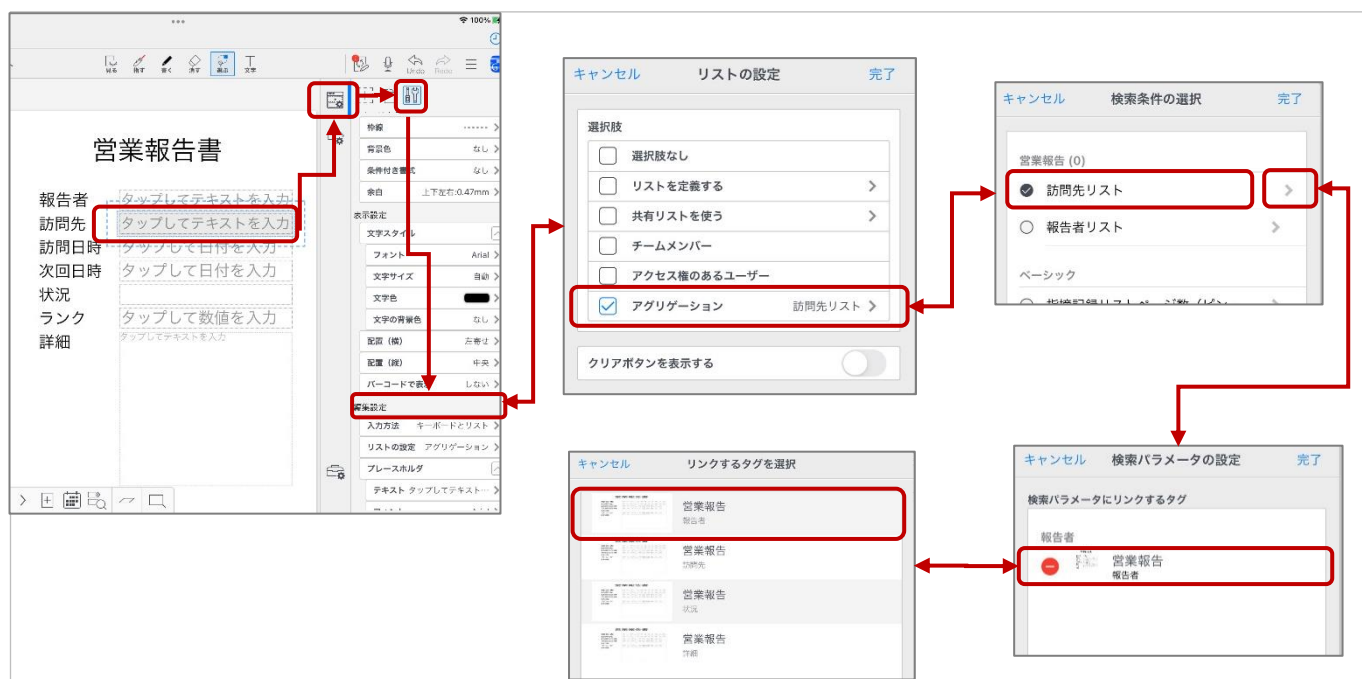
- ① 設定 ID「**CustomerList**」、日本語に「**訪問先リスト**」と入力します。
- ② 結果タグスキーマに「**StringValue (文字列)**」をリストから選択します。
- ③ 検索条件中で使用するパラメータを設定します。カスケード入力では入力してある報告者の情報が必要になるので「**name**」を追加します。
- ④ 抽出テーブル名「**CUSTOMER_TBL**」、タイプ「**NoteTagDB**」、タグ検索条件「**BusinessReport (営業報告)**」を設定します。
- ⑤ SQL の設定。

```
SELECT
  DISTINCT customer AS v
FROM CUSTOMER_TBL
WHERE name= :name AND v != "
ORDER BY v
```

これで訪問先の情報を取得するアグリゲーション検索条件が作成できました。

訪問先リスト表示のための UI 設定

アグリゲーション検索条件を UI に設定します。



こちらも報告者のときの設定とほぼ同じフローですが、検索パラメータを設定したので、対象のタグを設定する必要があります。検索条件の選択の右側をタップすると検索パラメータの設定ダイアログが表示されます。検索パラメータにリンクするタグの「なし」をタップするとリンクするタグを選択ダイアログが表示されます。ここでは報告者のタグを選択します。

これで報告者にリストと、報告者に合わせた訪問先をリストで入力できるようになります。